

平成 30 年度 東濃地区学校図書館教育賞実地審査

12月10日（月）に、北栄小学校、滝呂小学校で見出しの審査が行われました。

<北栄小学校>

図書館へ行きたくなるような廊下掲示の工夫、本を読んでみたくなるようなコーナーの設置、読書を通して児童相互がつながる取組がされています。また、視聴覚教材の配備や電子百科事典を効果的に活用した調べ学習など、計画的、総合的な経営がなされていることなどを評価していただきました。



図書館に展示されている大きな「ゆめの木」



本を読んだ子からのフィードバックがある紹介コーナー

電子百科事典を活用した調べ学習



年々蓄積されていく

学びとつながる児童の作品

<滝呂小学校>

「読書習慣の確立」「図書館利用の充実」を重点に、多様な環境整備がされています。

目的の本の場所へ導く足跡「本探しの足跡」、新聞を活用した学習の充実を図っていること、相手を意識した紹介カードの展示等、機能的な経営がなされていることなどを評価していただきました。



目的の本へ導く「本探しの足跡」



新聞の良さや使い方を伝える
コーナー



相手を意識した本の紹介カード



おすすめの本のPOP